



高橋さんは、岩手県の里山で育ち、海外でS A F E（安全な食と環境を求める会）などの環境団体主宰の活動を経て、6年前に帰国しま

した。自然の中での子育てを考え北海道に安住の地を探していた所、洞爺湖の森と湖の美しさに魅了され、洞爺湖町に移住を決意しました。

4年前に月浦地区のカラマツ放置林を取得し、現在は同じカラマツ素材の家を建て息子さんと共に暮らしています。引越後早速「夢見の森」に目覚める・森林再生プロジェクト」を立ち上げ、平成26年9月から仲間たちと森づくりを始めました。

「訪れた人が森の中で眠り、夢を見て、本当の自分に目覚めたり、真の望みに気付いたりする」そんな森にしたいと『夢見の森』と命名。林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活かし、荒れ果てた2万坪の森林に手を入れながら、福島の子供達を招いてのティピ（インディアン）の移動式住居）キャンプを始め、森林資源を活かした物作り、自然学習やコンサートなど様々な文化活動を行っています。

「森の贈り物」と銘打ったイベントをシリーズで開催したり、クリスマスツリーの販売やトドマツの精油蒸留、森林浴などを行い、今後は第6次産業化も視野に入れています。

「植林はせず、自然更新による広葉樹との混交林にし、自然な森の姿を取り戻していきたい」と将来を見据えます。今年にはクチャ（アイヌの仮小屋）を建てたり、先住民の知恵に習いたいと目を輝かせながら語る高橋さん。

「森はちゃんと手入れすれば惜しみなく豊かさを与えてくれます。この森がそんな思いをもった方々が集う場所になってくれれば嬉しいです」（安嶋）



地域おこし協力隊が
出会った素敵な人紹介

夢見の森主宰
高橋 真由美さん
(月浦区)

東奔西走

今年も着飾った新成人達を取材。青春真っ盛りの彼らを見て、若さをうらやましく思う反面、サムエル・ウルマンの「ときには、20歳の青年よりも60歳の人に青春がある」という言葉にも勇気づけられます。

(H.O)

広告

今月のワンショット



男性のための料理教室
きんぴらごぼうを手際よく調理する参加者